

令和7年度
学校法人Dot学園
京葉介護福祉専門学校

学校関係者評価報告書

令和7年5月19日
京葉介護福祉専門学校

関係者評価報告書

○ 2025年度 学校関係者評価

1. 学校関係者評価委員会 開催日時

2025年5月19日(月)15:00～16:00

会場:京葉介護福祉専門学校 2階 介護実習室

2. 学校関係者評価委員会 出席者(計10名)

学校関係者評価委員:8名

学校教職員:2名(学校長 川端、副校長 矢澤)

3. 委員会の概要

冒頭に学校長より、2025年度の学校運営状況、学生募集の進捗状況、授業実施に関する詳細な説明を行った。これを受けて、学校が実施した自己点検の結果に基づき、学校関係者評価委員による多角的な評価を実施した。

1. 学校の教育目標

本校は、学校教育法の定めに基づき、高等学校教育の基礎の上に介護福祉に関する専門的な知識および技能を習得させ、職業または実生活に必要な能力を育成し、社会に貢献する人材の育成を目的とする。

2. 学校運営上の課題および解消計画の概要

課題(不足点)

- ・令和6年度において不明確であった留学生対応のフローは、令和7年度も引き続き改善の途上にあり、ビザの更新手続きのサポートの煩雑さや、留学生と日本人の混合クラスでの授業運営に関しての課題が残存している。
- ・競合との差別化、学校のブランドの再構築、広報活動の最適化のための施策を的確に実施していくことは、現時点の重要課題である。

解消に向けた計画概要

- ・入管局および他の専門学校との連携を密に図り、必要な情報をリアルタイムで収集できる環境を整えることで、事務員の負担を軽減し、かつ、留学生支援を強化する。
- ・学生への授業アンケートの結果を分析し、教職員の対応の改善を継続する。
- ・高校および日本語学校への訪問の頻度を向上させ、当校の認知度の向上を図る。
- ・ホームページおよびSNSを活用した情報発信を拡充し、学校法人の再ブランディングと若年層へのリーチを強化する。

3. 自己点検内容に関する説明および質疑応答

学校長が自己点検表の内容について説明を行った後、委員からの質問に対して回答を行った。

介護福祉士養成施設 指定基準の適合状況に関する自己点検表に基づく質疑応答：

① 留学生向け授業の工夫点について

- ・留学生への配布資料にルビを振る、一般的な日常会話で使用しない専門用語の使用や、日本古来の複雑な言語表現を避ける、教育上やむを得ず当該言語を用いる場合は直後に解説を加えるなどの対応を実施している。
また、日本語学習用アプリの活用に向けた準備を進めている。
- ・定期試験においては、昨年度に引き続き、試験時間の延長や自作資料の持ち込み許可等の措置を実施する方向で検討している。

② 介護実習における留学生の対応について

- ・令和6年度の介護実習は全員が問題なく終了した。
多くの留学生が介護施設等でのアルバイト経験を有しており、日本の社会性を身

につけているため、実習への適応も円滑であった。日本人学生と留学生がペアで実習を行えるよう、実習先との調整を実施したことが成果につながった。

③ 次年度の入学者数の見込みについて

- ・定員の充足を目標に広報活動を継続している。
- ・日本人の一般入学生および委託訓練生の大幅な増加は見込みにくいですが、引き続き彼らとの接触回数を増加させるための施策を継続する。
- ・定員を充足させるためには留学生募集が鍵となるため、日本語学校への働きかけを強化している。

また、ウェブサイトやSNSでの情報発信強化、オープンキャンパスおよび個別相談会の開催機会を増加させ、多角的な募集活動を展開している。

④ 年間行事の変更点および効果検証について

- ・教務および事務体制の見直しにより、新たな学校運営体制を確立した。

令和5年度は入学生が不在であったが、令和6年度、7年度と順調に入学生を獲得できたことで、改めて2学年体制を再開することができた。

そのうえで、1,2年生が協働する機会を多く設けるべく、例年の校外学習やスポーツ大会ではなく、1年生歓迎会、1,2年生交流会、試験前の激励会等を実施する計画を立てている。

本取り組みの効果(学生の満足度)については、事後アンケートにより検証を行う予定である。

4. 総括

本会は、学校長による総括の後、16時00分に閉会した。